

地域密着型サービス評価の自己評価票(A棟 さくらんぼ)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念「地域家族との交流」に基づき地域行事への参加、協力を実現させている。	○ 運営推進会議、各種イベントを通しさらに交流を深めて生きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を毎朝全員で復唱し実現に向けて取り組んでいる。	○ 更に継続していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	基本理念を玄関、受付、各ユニット、カウンター、応接室、利用案内ファイル等に掲げ、理解を深めてもらうようにしている。	○ 更に継続していく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶は利用者同行でも、それ以外でも笑顔を持って出来る様努めている。	○ 更にもう一歩進み交流を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議等の際は地区代表の方達とコンタクトをとり親交を深めている。	○ 子供会小・中・高・大学のサークルに声かけをし、一層の交流を図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設を利用し福祉用具の取扱い、介護の基本などを、体験を利用して出来るようにしていく。	○	左記を充実させていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	報告評価について厳粛に受け止め職員へ通告、改善へ取り組む。	○	左記について現実の一つ一つ解決していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者、住民の意見を聞き、話し合いをする事で新たな課題を発見できサービス向上に活かしている。	○	参加者の輪を広げ、地域との関わりを今以上に広げていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に生保の利用者については担当者と蜜に連絡をとり情報交換が出来るようにしている	○	生保利用者についても連携をとりサービス向上につなげていけるよう努力していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現時点において特に必要としている利用者がいないため、学ぶ機会は持っていない。	○	必要に応じて勉強し支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会等の参加、アンケート回答による自己意識の向上に努め、虐待行為がないよう施設全体で互いに注意を払っている。	○	全職員の認識の徹底を一層図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき両者が十分に納得いくまで話し合い理解、納得を得るようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や心情を出来るだけ引き出し、訴えがある場合は即改善策を打ち立てるように努力している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全ての家族に定期的にはないが可能な限り郵送・電話等を通し利用者の情報を家族に随時伝えている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情受付箱を設置し、記名・無記名に関わらず誰でも意見を申し立てられる様にし、少なくとも1ヶ月に1回開封し運営向上に役立てている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、ユニットミーティング等定期的に設け職員の意見を積極的に取り入れ施設の向上につなげていく様努力している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者又その家族が不安な思いをしないよう適切に対応できるスタッフの配置をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、離職は必要最小限にとどめるよう努力している。又スタッフの交代に関しては、認識できる方には事前に報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新任研修・現任研修と段階を持ち指導内容、向上の経過が分かるよう記述している。外部の研修については参加を交代制にて促すようにしている。</p>	<p>○</p> <p>更に全ての職員が様々な内外の研修に参加でき、施設内で共有できる様にしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム運営者同志で集まりの機会を持ち、情報交換、勉強会を通しサービス向上に努めている。お互いに訪問し意見交換に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個々の公私にわたる問題や悩みについて出来るだけ聞く機会を設け又、声かけをして少しでも改善していくよう心がけている。</p>	<p>○</p> <p>定期的に個人面談を行い全ての職員と話をしていくようにしたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>同資格者であっても年齢等を問わず意欲や成果に合わせ、手当等に若干の違いを出している。資格試験等のスキルアップに対し可能な限りバックアップしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の率直の言葉や意見を一つ一つ受け止め本人の立場にもなり、安心と信頼を持って話して頂けるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の率直の意見を一つ一つ受け止め相手の立場にもなり、安心と信頼を持って話して頂けるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者家族にとっての今、求めている事を必要性の大きさ別に分類し、施設として可能な事、又努力していきたい事などを利用者、家族と納得いくまで話し合う。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所の機会を作り、本人と家族の施設に対する信頼と安心感を得て頂いてから、正式入所の手続きに持っていき体制にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人一人の個性を尊重し、その人に合った今できる事を大切にお無理強いする事なく、お願いしたり、任せたりして、成果を喜び合う様にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報を伝える際は良い事ばかりではなく、現状を正確に伝え、利用者、家族が一体となり、よりよいサービスにつなげられるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の相方の立場を可能な限り理解し相方の思いが誤解や一方通行にならない様取り持つことで支援につなげている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り利用者の思いを形にしていく意味で、馴染みの場所へのドライブ、買い物等へ誘うようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個性を尊重しながら、イベントなど楽しめる物を一つでも多く取り入れ個人の役割や、利用者同士の関わり合いを深められるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了された方の問い合わせ等にはすぐに対応できるようにしてあるが、現在のところ特に先方から継続的な関わりを望む声が無いので特別な事はしていない。	○	継続的関わりを望まれる際は十分な対応をしていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを重視し、その人らしい、その人が望む生活が実現できるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントにて情報をより多く把握し、スタッフ全員に通達できるよう努めている。	○	入所後も情報が新たに得られた場合、スタッフ全員が把握できる様に書面にて開示している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員が共通して把握できる様、申し送りの徹底、個人ファイルでの記録を重視した形で行っている。	○	近日中に各利用者に対する担当を決めいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランに付いては、全ての職員と情報を共有した上で、ニーズが何であるかを見出し家族の意見も組み入れながら立てている。	○	利用者本位のケアプランであるため家族の面会がある時などに少し時間を頂き、ケアプランを説明し、了解を得てサインを頂くようにしている。又今後家族が居ても面会がない方に関しては、説明は出来ないがケアプラン郵送の形を検討している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ヒヤリハット、事故報告があった場合又、病状や状況に変化があった場合、関係者の情報を詳細に得る事により必要に応じて、その都度プランの見直しを図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者職員とのコミュニケーションを重視し、必要に応じ随時ケアプランの見直し又、支援の方向性を変えていっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所時に規則等は十分理解を得ているが、状況に応じ家族と相談し可能な限り随時変化に則して柔軟に対処できるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる定期的なオカリナ演奏会・和太鼓演奏会・三味線演奏会、消防署による人命救助講習・災害非難訓練等市の芸術祭観賞など、協力しながらの支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個人的に同職ケアマネとの意見情報交換は随時行い参考にしている。	○	昨年度より発足された、ケアマネ会議には積極的に参加するようにしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	包括支援との関わりを密にし、これまで以上に協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望要望に誠実に対応している。体調の変化等にはすぐに担当医に相談し、支持を得、家族へ連絡するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同市内、脳神経専門医と関係を築き認知症以外の分野でも診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		○	看護職との関わりがあまり無いので看護職に限らず精通している方々との相談の機会を増やしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人家族の希望、要望に答えられる様、施設として出来るだけの努力をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	可能な限り、医師との連携を図り、看取りまで行うこととしているが『その時点』での家族の意向を尊重した形で対応していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	担当医、家族との連携を十分に又、綿密にとり少しの変化も見逃さないようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供書等必要と思われる事は全て伝達していく事ができる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	施設側としては出来る限りプライバシーの確保に配慮している。又プライドを傷つけない様、声掛け対応にあたっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の状況に応じ声かけ語りかけを行い、本人の納得のいく形で、支援していく様になっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日スケジュールの流れはあるが、個々の状況に応じ個人の希望に添って支援していくようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一月に一回ボランティアによる美容師訪問にて交代で散髪する。又、個々に希望する場合、要望に応じている。化粧品等については、希望の物を買って来たり本人同行にて買い物に行く。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ができる事は依頼をし、職員との食事はしていない。	○一緒に食事を楽しむ事に関しては、見守り重視でないと目が届かず事故につながりかねない為、今後は利用者の状況に応じて、職員一人だけでも同じ食卓に付ける様に努力したい。戸外でのランチを皆で楽しめる機会をより一層増やし、利用者職員と、一緒に食事ができるようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の体調により、本人が希望しても希望通りに提供できないものもあるが、なるべく本人の望む様に支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ清掃の徹底。個々にリハパン・パットの利便性を生かした選択を使用している。トイレ誘導の声かけをまめにし失禁を減らす努力をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回施設のスケジュールにある程度合わせて入浴してもらい、残りの1回は、本人の希望状況に応じてシャワー浴、下半身浴等になる時もある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	全個室にてプライバシーが保たれ、その人のペースで安眠・休憩がとれる様にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	めりはりの有る生活が送れるよう、散歩・買い物・イベント参加・ボランティアの来園を積極的に行っている。	○	個々に持っている「手続き記憶」を生かし、又取り戻すことで生き甲斐を持ったり楽しむことを支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知度の重い方が殆どであるが、有る程度金銭管理のできる利用者が1割弱程度。この利用者には時々収支のアドバイスを行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季を通して声かけをし、ほぼ決まった時間に日光浴と施設内外を散歩する事をユニットごとに実践している。冬場は暖かい日に限られる。個人的に一人での散歩希望者には、ヘルパー同行にてできるだけ希望に添うようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に添った形でNPO法人の会員に入会して頂き、外出を可能にしている、その手続き等を支援している。又家族へ依頼し家族とともに外出できる様支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出があれば事務所へ誘導し、電話の介助にあたっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設なりにお茶を出したり、将棋や椅子を用意したり、又食事時であれば状況に応じて食事時間をずらすようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全利用者に対しても行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵は無いが玄関には昼夜を問わず、徘徊・脱走を試みる利用者がある為、安全のため施錠せざるえない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の行動パターンを把握し、所在の確認・安全の配慮をしながら見ながら介助していくように努めている。	○	新人ヘルパーも含め全ての職員が左記を徹底していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	皆が一律の認知ではないので、利用者共有の場は認知の重い人を基本に保管し、管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応、連絡網の開示、救命基礎講習訓練、災害訓練等の講習を毎年行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練を忘れないように、常時スタッフ全員が見られるように開示している。	○	知識だけでなく即実践できるように、定期的に講習会を開きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員による講習会、アドバイスを元に全職員が対応できるようにしていくと共に、運動推進会議等にて地域への協力を依頼する。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常に家族とは電話・面会時に状況を説明し、家族の希望を生かした形での支援にあたっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り等は他ユニット利用者についてもメモする。異変がある時は可能な限り対応策を通達する。急変時の連絡体制を整えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全ての利用者の、全ての薬の副作用等を把握してはいないと思うが、変更時は連絡し、薬状についてすぐに関覧が出来るようにしている。	○	ユニットごとの利用者(9名分)については、職員が薬の目的・用法・用量をしっかりと把握できるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者の便秘が続いている場合、施設側としてできる対応を行い、それでも続く時は担当医への相談をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きをする様声かけし、実際にやってもらい、出来ない人(十分に磨けない人)には職員が介助にあたる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が常勤ではない為、カロリー計算等はできていないが、月1回の体重測定は必ずチェックし±2Kg以上の方には、職員へ注意して見るように促している。一年を通し、水分不足にならない様努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	独特に作成した感染症予防対応の取り決めのプリントと感染症予防対応の取り決めプリントと感染症予防セットを各ユニットに設置し職員全員が対応できるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	施設として可能な限り最善をつくしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季をを通して花が絶えないような玄関周りにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活観、季節感が身近に感じられるような飾り物、四季折々の品々を1つでも多く取り入れるように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他リビングルームを設け個々、又は談笑の場として楽しめる様にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物を1つでも多く持参して欲しいと伝えている。	○	品質等の問題ではなく身の回りの物、思いで品々など1つでも多く持参して頂く事をすすめたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬のエアコンによる部屋の乾燥なは濡れタオルを各部屋にかけたり、共同スペースの食堂には加湿器をセットしている。エアコンの湿度調整はまめにおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせ、ベットの危険の場合マットレスを代替にする。又廊下、リビング、食堂などには、歩行がスムーズにできるよう物を置かないようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには番号やのれんを掛けたり風呂場にも専用ののれんをかける、又各室の扉には、名前と顔写真を大きく貼り、自身で認識できるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い庭を生かし、四季折々の草花や作物を育て、収穫の喜びを共に味わい食し、季節を感じていけるようにしている。	○	利用者の参加を一人でも多くし皆で目的を持ち楽しめるようにしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人一人の日常における体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、必要に応じた対応ができるようにしている(担当医へ相談・家族へ連絡相談等)